

# 水曜通信 9

2018年  
1月

東北学院大学研究ブランディング事業通信  
「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」

## 第9回水曜礼拝（公開大学礼拝） 2018年1月17日（水）18:30-19:00



説教：鐸木 道剛（本学教授）  
奏楽：小野 なおみ（本学礼拝オルガニスト）

<礼拝次第>

前 奏：G.ベーム「天にまします我らの父よ」  
讃美歌：121番「まぶねのなかに」  
聖 書：マタイによる福音書 10章34～39節  
          コリント信徒への手紙第一 12章21～27節  
讃美歌：122番「みどりもふかき」  
説 教：「すべては主のため」  
祈 禱  
頌 栄：540番「みめぐみあふるる」  
後 奏：F.リスト「後奏曲」

後奏の後、19：10から礼拝堂において、モリゴーフォー（グリークラブ・聖歌隊OB）の合唱による讃美があります。

次回第10回水曜礼拝は**2月21日**です。

## 第8回水曜礼拝報告（説教：佐々木 哲夫、奏楽：小野 なおみ）

2017年12月20日(水) 18:30-19:00

讃美歌：97番「あさひのはのぼりて」

聖書：創世記 1章1～3節

ヨハネ 1章1～5節

説教：「命は人間を照らす光」

讃美歌：98番「あめにはさかえ」

頌栄：541番「ちちみこみたまの」



### 【説教要旨】

ヨハネ福音書の書き出しは創世記の書き出しと共鳴しつつも、永遠の初めにロゴス（言）が存在し、ロゴスは創造を担った神であり、ロゴスがイエス・キリストであると宣言している。問題は、体の命が終わる後に残る命、魂の行き先、すなわち、永遠の命である。イエス・キリストは、「私が命のパンである…このパンを食べるならば、その人は永遠に生きる」と言う。イエス・キリストは、実に「真実の神、永遠の命」である。ヨハネ福音書は、さらに、その命が人間を照らす光であると譬える。パウロは「光から、あらゆる善意と正義と真実が生じる」と言っている。善意や正義や真実は、愛や平和などと共通する徳であり、世に光のごとく放出されている。イエス・キリストは「わたしは世の光である。わたしに従う者は暗闇の中を歩かず、命の光を持つ」と言う。ヨハネ福音書はしかし、「暗闇は光を理解しなかった」とも言っている。他の箇所では「光が世に来たのに、人々はその行いが悪いので、光よりも闇の方を好んだ。…真理を行う者は光の方に来る」と述べている。（佐々木哲夫）



前奏：J.ブラームス「一輪のばら咲き出でて」

後奏：J.ブヴァール「おいで下さい、救い主よ」

礼拝に60名、その後の19時10分から30分までの聖歌隊（16名）の合唱による讃美に44名の市民が参加されました。

## 礼拝後、中川郁太郎氏（本学特任准教授）の指揮の元、聖歌隊による讃美

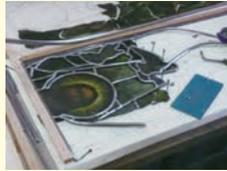
神の子イエス・キリストの降誕を間近に控え、宗教部聖歌隊がキャロリングによる讃美をおこないました。まず、ドイツで愛唱されているクリスマスの讃美歌《エッセイの根より》。雪野原に一輪のバラが咲いた、そのバラこそ、預言者イザヤが告げたイエスの母マリアなのだ、という美しい歌詞です。この讃美歌をもとにブラームスが作曲した幻想的なオルガン曲が、本日の礼拝の前奏で弾かれた《一輪のばら咲き出でて》です。それ以外の3曲は、福音主義・超教派の教会音楽の発展に尽くした中田羽後が晩年に編纂した《くりすます・きゃろるず》という歌集から採りました。まず、古式ゆかしい、格調高い歌詞による《来ませよ母上》、続いてヴェネツィアの交唱様式を思わせる二つの合唱体のかけ合いによって、ベツレヘムの馬小屋の物語が進行していく《宿の人よ》、そして最後に歌った《み使いの歌は》では、星のきらめく羊飼いの野に誘われるかのような音楽が聴けます。この歌の最後に讃美歌111番《神のみ子は今宵も》のメロディが登場しますので、最後は会場の皆様とともに讃美歌111番を歌い、クリスマスを迎える心の備えをいたしました。

（中川郁太郎）



## — スタンドグラス修復の進捗状況 —

洗浄が終わったガラスから新しい鉛棧を使い組立て直しが始まります。イギリスのスタンドグラスの特徴としてやや太めの鉛棧を全て小さな部分も含め使用しているため、同様に巾8mmの鉛棧で組立てを進めてゆきます。かなり小さなピースではほとんど鉛で隠れてしまう様な部分



再組み立て



ハンダ付け

も、そして複雑なきついカーヴの部分もガラスの形に沿って丁寧に鉛を曲げてゆきます。全てのピースが組みつながら全体の寸法、直角を確認後鉛と鉛のジョイントをハンダ付けします。ハンダ付けは鉛が溶ける寸前の温度で融着しますので注意深く作業を進める必要があります。次にガラスと鉛棧の隙間に石灰を亜麻仁油で溶いたパテを詰め外部からの雨風を防ぎガラスを安定させ振動からガラスの破損を防ぎます。パテを詰めた後、おがくずで鉛棧とガラスを磨きしっかりと鉛棧の隙間にパテを詰め込んでしまいます。スタンドグラス作業工程最後のパテ詰め作業はまさに肉体的労働で、作品に対して真摯な気持ちで作業をすることが要求されます。

(光スタンド工房代表 平山健雄)

## ランカスター神学校訪問報告



1893年（1925年改築）の本館と礼拝堂

12月3日から6日まで、本学の三校祖のホーイ先生とシュネーダー先生の母校であるランカスター神学校を訪問しました。鉄道（Amtrak）でニューヨークから3時間です。1825年に創立された神学校は、1893年以来フランクリン&マーシャル大学（1853年統合）の隣にあります。ペンシルヴァニア州はドイツとオランダの移民が多く、ランカスターはドイツ改革派の拠点で、周りには現代文明を否定するアーミッシュ



食事ホールのスタンドグラス



左から Nancy Payne (John師夫人)、Kit Gregory師、Caroline Call師、Robert & Betty Reiff師、Carol Lych校長、Jan & Peter Schmiechen前校長



神学校図書館2階にあるThe Evangelical and Reformed Historical Societyにある日本関係資料

(メノナイト)の人たちが今でも馬車の生活をしている地域です。日本への宣教は押川先生との繋がりで東北でなされました。1916年建築の食事ホールのスタンドグラスには富士山が描かれており、改革派教会の資料室には日本伝道の資料は段ボール箱10箱に整理されていました。大学図書館にはその他に400箱の資料があり、現在デジタル化作業中です。

(鐸木道剛)

## 2月24日ラファージ・シンポジウムのお知らせ

日本で（世界で！）初めてのジョン・ラファージ（John La Farge 1835-1910）についてのシンポジウムを、アメリカからFloyd氏とKresser氏、そして有木宏二氏と埼玉県近代美術館の五味良子氏をお招きして開催します。ラファージは19世紀アメリカで全く新しいステンドグラスを制作し、ティファニーに影響を与えた重要な画家です。1886年来日し、日光の神秘的な森に感動します（ここには古代のパーンが生きている！現実と永遠を繋ぐ自然がここにある！）。そして帰国後ニューヨークで、キリストの昇天を描く壁画に日本の風景を描き込みました。ラファージはカトリックでしたが、日本では、ボストンのハーバード人脈のユニテリアンで信徒であったフェノロサやビゲロー、そして岡倉天心と一緒にでした。日本でのキリスト教の受容にも関わる問題です。シンポジウムの詳細は次号でお知らせします（鐸木道剛）



Private collection, New York;  
Courtesy of William Vareika Fine  
Arts, Newport, Rhode Island

ジョン・ラファージ  
『日光の僧侶の家』  
1900年 紙に水彩  
22×16cm



ジョン・ラファージ 壁画「昇天」  
ニューヨーク 昇天教会 1890年制作



ジョン・ラファージ  
ステンドグラス  
ニューヨーク ジャドソン  
記念教会 1892年

## ステンドグラス再設置公開と記念礼拝・講演会のお知らせ

ラーハウザー記念東北学院礼拝堂のステンドグラスの修復が終わり、ふたたび礼拝堂に設置されます。2月27日（火）に設置の作業を公開するとともに、3月2日（土）にはステンドグラス修復完了記念礼拝、記念講演会に続いて、音楽による讃美の会をもちます。ひび割れが修復され、真新しい鉛枠が取り付けられ、洗浄されて、見違えるように美しくなりました。いずれもラーハウザー記念東北学院礼拝堂で行います。詳細は後日、お知らせします。



洗浄されて細部まで見えるようになったステンドグラス。12月22日撮影

文部科学省私立大学研究ブランディング事業とは：

学長のリーダーシップの下、大学の特徴ある研究を基盤として、全学的な独自色を大きく打ち出す取り組みを行う私立大学に対し、施設費・装置費・設備費と経常費を一体的に支援するもので、各大学の特色化・機能強化の促進を目的としています。東北学院大学は、「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」との事業名で平成28年11月22日に採択されました。

東北学院大学研究ブランディング事業通信  
第9号

2018年1月10日発行

〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1

TEL：022-264-6405（研究機関事務課）

E-mail：branding@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

URL：http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/theology/